

1. 特別委員会・WGの会合開催経過

(1) 特別委員会

第1回 平成 15 年 6 月 25 日 (大宮ソニックシティ・第 50 回総会時)

活動計画、スケジュールを確認。

研修プログラム WG を設置し検討を進めることを合意。

(2) 研修プログラムWG

第1回 平成 15 年 7 月 15 日 (京都大学附属図書館)

研修事業について、委員所属大学での実情紹介とフリー・ディスカッション。

個々の事案については、メーリング・リストで検討していくことを合意。

2. 主な活動経過

(1) メーリング・リスト (開設: 7/4、111 件 (10/17 現在)) で検討した主な課題

a) 国立情報学研究所が実施する研修事業との連携調整

平成 15 年度 NII 新規研修事業に対して、検討結果を要望

1) 学術情報リテラシー教育担当者研修

電子ジャーナルについて電子ジャーナル・タスクフォースとも平行して協議しつつ、(1) 今後の学術情報リテラシー教育の進め方について共通理解が得られるようなディスカッションの場の設定、(2) IT に偏らずに紙ベースでのリテラシーと当分は併存することの反映、(3) 情報検索から情報加工、プレゼンまでを視野に入れた今後の方向性などを盛り込むことなどを要望した。

2) 学術ポータル担当者研修

(1) 効果的なポータルの形成と運営のために学内で協力を得る上での戦略なども講義内容に含めること、(2) 研修後に学内で期待される役割、参加要件・資格の明確化等を要望した。

平成 16 年度以降の NII 研修事業に対する意見

(1) ネットワーク関連の研修内容は、図書館側のニーズを紹介して調整が必要

(2) 効果的な e-learning 方式の導入・拡大

(3) NII の研修等で旅費を負担しなくなる可能性が示唆されていることに対し、継続措置を期待したいこと

(4) CAT、ILL 等は、講習会に参加しなくとも自学自習で使いこなせるインタフェースや操作性の提供を期待したいこと

(5) 研修に関する資料 (各大学図書館での教育支援事例、教材等) を NII で収集して紹介するサービスの提供

などが挙げられている。

- b) Global ILL Framework (GIF) と画像伝送システムの活用研修の年度内実施
(第50回総会後の総括理事会決定を受けて)
研修実施要項の作成(東西2地区での開催を準備中)
GIFプロジェクト・チームとも協議・協力を得て実施

- c) 新たな国大図協研修プログラムの設計
話題となっているテーマは、下記の通り。
デジタル・ライブラリアンの養成
サブジェクト・ライブラリアンの養成と蔵書整備、レファレンス・ライブラリアン
館長、部課長等のマネジメント研修
海外図書館員との合同研修

- d) 研修事業の実施主体と対応する研修内容の整理

- e) 研修に関連する課題
先見性のある人材、実行力のある人材を図書館(界)が育成し確保できなかったと
いう反省
図書館側のニーズと対応させて図書館員のキャリアパスを計画的に形成する必要性
採用後の能力開発から見た研修、自己啓発、OJT等の使い分け
「社会人の能力開発は(主体性のある)自己啓発が基本」
新規採用時の求人要件の明確化
能力開発環境に関する図書館間格差への対応
図書館情報学と現場との乖離への対応

- f) ホームページの開設(準備中)
委員会活動の紹介
研修カレンダーの提供試行

3. 研修プログラムWG名簿

- 主査: 大 埜 浩 一(京都大学附属図書館・事務部長)
- 副主査: 石 井 道 悦(神戸大学附属図書館・情報管理課長)
- 委員: 沢 庄 一 郎(滋賀大学附属図書館・総務係長)
小 川 晋 平(京都大学附属図書館・総務課・図書館専門員)
大久保 佳 典(京都工芸繊維大学附属図書館・相互利用係長)
大 西 直 樹(大阪大学附属図書館・情報サービス課・図書館専門員)
後 藤 慶 太(奈良女子大学附属図書館・情報サービス係長)